

第4回特別支援教育ワーキンググループに寄せる意見

一般社団法人 SOZO. Perspective 代表理事

海老沢 穰

【情報活用能力について】

- (1) 資料（第4回特別支援教育ワーキンググループの検討事項）6ページにある「知的障害特別支援学校の学びのイメージ」についてですが、情報技術の活用については、基本的な操作の習得に加えて、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の学習プロセスを授業で取り入れることがとても大切になると思いますので、「基本的操作だけを体験すればよい」といった解釈にならないように、学習活動の例の中に上記の学習プロセスを分かりやすく示すことが大切であると思います。

学習活動のイメージとしては、第1回WGの【参考資料1】特別支援教育ワーキンググループ参考資料集の75ページに掲載されている「特別支援教育におけるデジタル学習基盤を活用した学びの姿（イメージ）」にある視点1の「情報活用の場面」（収集 判断 表現 処理 創造 発信 伝達）の具体例を掲載する方法もあるかと思います。

- (2) 資料（第4回特別支援教育ワーキンググループの検討事項）6ページ「知的障害特別支援学校の学びのイメージ」の小学部の学習活動についてですが、活動例として、情報・技術ワーキンググループ（第3回）／生活、総合的な学習・探究の時間ワーキンググループ（第2回）合同会議 配付資料【資料1】「小学校における情報活用能力の育成について」の29ページに掲載されているように、『『機器・アプリケーションの基本操作』については、低学年においては、特に身体性を大切にしながら、『写真（動画）を撮る』『録音（録画）する』『動画等を視聴する』『絵を描く』『図形を操作し動かす』など、各教科等での目標を達成する観点からデジタルに慣れ親しむ体験的な活動を行う中で学ぶことと』する、という内容を参考に記載するとよいのではと思いました。

ただ現状では、知的障害特別支援学校等において、余暇支援と称してインターネット上の「動画等の視聴」のみを主に行っている場面もまだ見受けられています。学びや支援のツールとしてのデジタル学習基盤の重要性を改めて明らかにし、必要に応じてアクセシビリティ機能を活用した環境調整（画面に表示するアプリを設定できるアシスティブアクセスの活用例など）も必要であることも記載があるとよいかと思います。

【自立活動について】

- (1) ○○トレーニング的な学習活動は特別支援学校でも行われています。知的障害特別支援学校では、いわゆる脳トレのような学習に取り組む授業も見受けられ、自立活動の趣旨が十分に理解されていない状況があります。

野口委員のご意見にあったように、そもそも「自立活動」という用語でいいのだろうか？ということも感じています。

「自立」という言葉からは「自分で何でもできるようにする」というイメージが想起され、ややもすると、支援は減らしていかなければならないという考え方になることがあります。

本人が困っていることをベースに、必要に応じて本人の意思で支援が受けられるようにする、そのための選択肢を増やすといった考え方が浸透していない現状があると思います。

セルフアドボカシーの観点からも、論点整理で示された「自らの人生を舵取りする力」を育てるための自立活動であること、自己選択・自己決定、意見表明権を大切にする視点を分かりやすく明記する必要があるのではないかと思います。

- (2) 「自立活動におけるデジタル学習基盤の活用」についても分かりやすい記載があるとよいと思います。現行の学習指導要領解説編にも例としての記載はありますが、さらに「デジタル学習基盤の活用」等の項目を各区分に位置付け、具体例（見えづらさや読み書きの困難等へのアクセシビリティ機能の活用、コミュニケーション支援（AAC）としての活用、重度重複障害のある児童生徒の実態把握への活用など）を掲載してもよいのではと思います。